

インターバンクの声（2016 年 10 月 14 日）

昨日は、アジア時間に発表された中国の経済指標の結果が、久しぶりに海外市場の相場展開にも影響した。東京時間の午前中に発表された 9 月の中国貿易収支は、輸出、輸入ともに市場予想よりも悪化、とりわけ輸出が前年同月比 10.0%減少し、前月約 2 年ぶりに増加に転じていた輸入も再び減少に転じたとあって、市場の中国経済への先行き懸念が再燃してしまった。大きな実需のフローが出ていたとの噂も聞こえたが、発表後のドル円が 104 円台中盤から 103 円台中盤まで急落するきっかけになっていたことは間違いない。ウェルズ・ファーゴの不正問題やドイツ銀行の経営不安が相変わらず世界中の金融株への圧力になっているが、中国経済が再び冷え込むのではないかと懸念は、昨年夏の中国ショック時の株式相場の下げを思い出させたに違いない。下げ過ぎていたとの判断による反発もあったのだろうが、ニューヨーク時間では対ユーロやポンドでもドルが軟化、普段は中国の経済指標が悪ければ売られる豪ドルに対しても下落した。今週は乱高下気味の相場が続いただけに、今日は少し落ち着いた相場になるような気がするが、来週も米国や中国の経済指標の発表が続き、内容によっては再び荒れ相場になるかも知れない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。